

リーディングDXスクール事業【実践事例】

北海道帯広柏葉高等学校（北海道）【指定校】

【取組内容】「学習者の自立」を目指した授業改善

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）が示す「**自立した学習者**として学びに向かう生徒の姿が実現することを目指す」という観点に加え、本校がグラデュエーション・ポリシーに掲げる「**多面的な知識・技能を主体的に習得する力**及び様々な課題に対して**自らの確に考察・判断し、表現する力**を育成する」という観点から、以下の授業改善アクション・プラン①～③を設定し、学校全体で共有した。

Action① 学習者が能動的に学び続けるための単元をデザインする。

【単元デザインのポイント】

- 単元の冒頭に、学習者が「大まかな」活動内容等の提示を受け、単元の見通しを持つ場面を設定する。
→授業者は「**学習の手引**」(図1)により提示する。
- 学習者が、自分に最適な学習活動や、学習方法を選択・判断し、決定する場面を設定する。
- クラウドで共有されているデータや直接的なやり取りを通して、他者の進捗を参考にしながら学びを進めたり、自分の考えをまとめたりすることを指導する。

図1 (学習の手引)

単元 B-1 「生活文化の多様性と国際理解」

問い	世界の話地域の生活文化は、どのように育まれてきたのだろうか																	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の生活文化に、どのような環境が影響を与えているのかについて説明できるようになること。 ・主体的に課題を追求し、自己調整しながら学習を進めること。 																	
時間	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学習内容</th> <th>学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① 事例(調査対象地域)の設定 ② 仮説(調査前の予想)の設定 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ① どの地域を事例としてもかまいません。解を導くためにふさわしい事例となる地域を学習者の判断で設定します。 ② 例えば、「●●の地域で見られる●●のような生活文化は、●●によって育まれた(影響を受けた)に違いない。」という表現で、調査前の予想を設定してから調査に入ります。 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>③ 情報の収集</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ③ 集めた情報を根拠として、仮説が正しかったことを証明します。上手く証明できない場合は、仮説を再設定し、再び情報を集めます。 何を集めるのか(例:写真、統計データ、グラフ、証言など) どのように集めるのか(例:文献、新聞、インターネット、インタビュー) </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>④ 収集した情報の整理 ⑤ 提出スライド作成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ④ 集めた情報を根拠として、仮説が正しかったことを証明します。上手く証明できない場合は、仮説を再設定し、再び情報を集めます。 ⑤ 「問い」「仮説」に「根拠とした情報」「解」をスライド上に整理します。 </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>⑥ 発展課題</td> <td> <p>【ここ重要!】 この学習において他者と協働(参照、比較、相談、質問、意見交換、議論など)しながら解を追求することは極めて重要です。 ①～⑤のプロセスにおいて、どのタイミングで、どのような目的で、どのような人と協働的に学ぶかは、学習者の判断で決めます。</p> </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>スライド完成</td> <td>「世界の諸地域の生活文化は、どのように育まれてきたのだろうか」の解の説明を必ず含んだものとします。</td> </tr> </tbody> </table>	学習内容	学習のポイント	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 事例(調査対象地域)の設定 ② 仮説(調査前の予想)の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ① どの地域を事例としてもかまいません。解を導くためにふさわしい事例となる地域を学習者の判断で設定します。 ② 例えば、「●●の地域で見られる●●のような生活文化は、●●によって育まれた(影響を受けた)に違いない。」という表現で、調査前の予想を設定してから調査に入ります。 	2	③ 情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ③ 集めた情報を根拠として、仮説が正しかったことを証明します。上手く証明できない場合は、仮説を再設定し、再び情報を集めます。 何を集めるのか(例:写真、統計データ、グラフ、証言など) どのように集めるのか(例:文献、新聞、インターネット、インタビュー) 	3	④ 収集した情報の整理 ⑤ 提出スライド作成	<ul style="list-style-type: none"> ④ 集めた情報を根拠として、仮説が正しかったことを証明します。上手く証明できない場合は、仮説を再設定し、再び情報を集めます。 ⑤ 「問い」「仮説」に「根拠とした情報」「解」をスライド上に整理します。 	4	⑥ 発展課題	<p>【ここ重要!】 この学習において他者と協働(参照、比較、相談、質問、意見交換、議論など)しながら解を追求することは極めて重要です。 ①～⑤のプロセスにおいて、どのタイミングで、どのような目的で、どのような人と協働的に学ぶかは、学習者の判断で決めます。</p>	5	スライド完成	「世界の諸地域の生活文化は、どのように育まれてきたのだろうか」の解の説明を必ず含んだものとします。
学習内容	学習のポイント																	
1	<ul style="list-style-type: none"> ① 事例(調査対象地域)の設定 ② 仮説(調査前の予想)の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ① どの地域を事例としてもかまいません。解を導くためにふさわしい事例となる地域を学習者の判断で設定します。 ② 例えば、「●●の地域で見られる●●のような生活文化は、●●によって育まれた(影響を受けた)に違いない。」という表現で、調査前の予想を設定してから調査に入ります。 																
2	③ 情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ③ 集めた情報を根拠として、仮説が正しかったことを証明します。上手く証明できない場合は、仮説を再設定し、再び情報を集めます。 何を集めるのか(例:写真、統計データ、グラフ、証言など) どのように集めるのか(例:文献、新聞、インターネット、インタビュー) 																
3	④ 収集した情報の整理 ⑤ 提出スライド作成	<ul style="list-style-type: none"> ④ 集めた情報を根拠として、仮説が正しかったことを証明します。上手く証明できない場合は、仮説を再設定し、再び情報を集めます。 ⑤ 「問い」「仮説」に「根拠とした情報」「解」をスライド上に整理します。 																
4	⑥ 発展課題	<p>【ここ重要!】 この学習において他者と協働(参照、比較、相談、質問、意見交換、議論など)しながら解を追求することは極めて重要です。 ①～⑤のプロセスにおいて、どのタイミングで、どのような目的で、どのような人と協働的に学ぶかは、学習者の判断で決めます。</p>																
5	スライド完成	「世界の諸地域の生活文化は、どのように育まれてきたのだろうか」の解の説明を必ず含んだものとします。																

期待したい発展学習: 新たな問いの創作、問題演習、発達のリフレクション、他者支援など、「学んだ知識や活動を活かした主体的な動き」

リーディングDXスクール事業【実践事例】

北海道帯広柏葉高等学校（北海道）【指定校】

Action② ICTの強みをいかし、学習者が能動的に学び続けるための環境を調整する。

【環境調整のポイント】

- 1人1台端末とクラウドを積極的に活用し、協働的な学びの活性化を図る環境を整える。
 - ・ 非同期分散で他者の考えや学習方法を互いに把握できる環境 (写真1)
 - ・ 学習者同士が情報を共有しながら、プレゼンテーション資料等を共同で編集できる環境 (写真2)

仮説の設定		
食料偏在の原因と対策	解決することの価値	検証に使用する事
先進国と途上国の経済格差、物がなくどころではなく金があるところへ流れるシステム対策 食料廃棄の多いところは輸入を抑制、重要な取引先は輸出国決める	食糧目的の競争の減少 貿易の輸送料の削減	コンゴ、バスタ アメリカ 日本
有衣 雨が降らないところとかさみすぎるところとかは植物が生えなかつたり動物も生きづらからそういつところは紙張が多いと思う。	貧困が解決することである人が生き生きできるから経済が発展する	ソマリア アメリ
知 経済格差があるから発展途上国は食糧の輸入が困難なのが原因。対策としては先進国の経済力で解決するべきだと思う	本来、働ける人でも飢餓などで働けない人がいるためそのような人たちが働けるようになるとう人手が増え生産量が増えると思う	インド
7核裁 輸出の商品作物を重視して自国の穀物生産に力を入れられないから。国によって経済の差があるので食糧のある数あるから。あまり発展していきたくも食糧を生産できるように技術を教えたり		

写真1 (地歴科)



写真2 (国語科)

Action③ 能動的に学び続けたプロセスを省察させる。

【省察 (モニタリング) のポイント】

- 単元末に、学習者が「何を学んだのか (内容)」だけでなく、「どのように学んだのか (方法)」についても振り返る (図2) ことができる場面を設定する。
 - ・ 学習者が選択・決定した「学習内容及び方法」や「他者と協働する目的、タイミング、相手」について、判断した理由を説明させたり、効果を検証させたりする。
 - ・ 学習者が、振り返りを (次の単元など) 今後の学びに生かせるようにする。
- クラウドを活用して、他者の省察内容を参照できるようにする。

図2 (モニタリング・シート)

【情報の収集】		仮説が正しいものであることを証明するための情報を集める学習について、何の情報を集め、また、どのように情報を集めようかと判断したのでしょうか。自分の学びのプロセスを振り返りましょう。
①何の情報を	理由	
②どのように集めようと	理由	
自分の判断の自己評価	とても良かった	良かった
評価理由	あまり良くなかった	良くなかった
【協働的な学び】 事例設定、仮説設定、情報収集、収集情報の整理、スライド作成という学習プロセスでの他者との協働的な学びについて、どのタイミングで、どのような目的で、どのような人と協働的に学ぼうと判断したのでしょうか。自分の学びのプロセスを振り返りましょう。		
①どのタイミングで	理由	
②どのような目的で	理由	
③どのような人と	理由	
自分の判断の自己評価	とても良かった	良かった
評価理由	あまり良くなかった	良くなかった
【発展学習】 活動を終了した後、学んだ知識や技能を活かし、どのような発展学習に取り組みようかと判断したのでしょうか。自分の学びのプロセスを振り返りましょう。		
どのような学習に	理由	
自分の判断の自己評価	とても良かった	良かった
評価理由	あまり良くなかった	良くなかった
他者のシートを見たり、意見交換をしたりすることで、どのようなことを感じましたか。		
今回の単元内自由進度学習の成果・課題を踏まえ、今後の学習で、あなたはどのように学習を自己調整していると考えていますか。		

「学習」のスケール (自由進度の学習なのか、他者との学習なのか、他者も含めた学習なのか) をどう捉えるかを見取る。より広いスケールで捉えることを期待する。